紀伊民報

(5)　2007年(平成19年)8月21日　火曜日

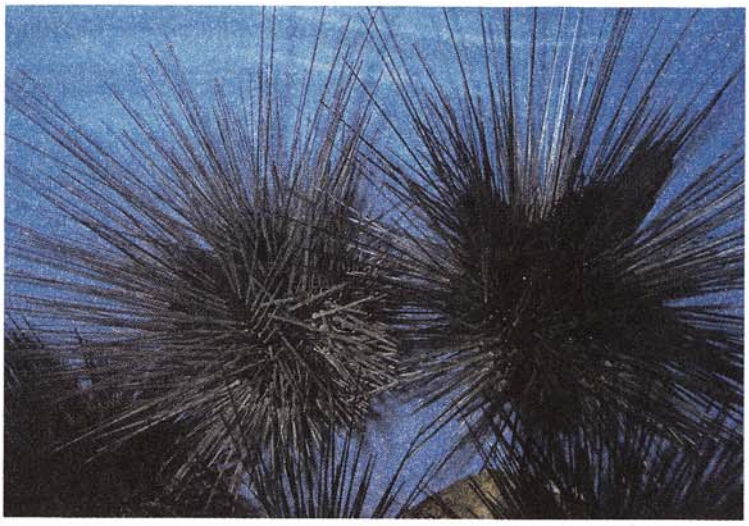
水族館へ行こう！

京都大学白浜水族館

8

宮崎 勝己

ガンガゼ



△白浜とその周辺で危険なウニの代表ガンガゼ（水槽番号2-17）

危険なウニの代表選手

白浜の磯には、さまざまな種類のウニが生息している。ウニの特徴といえば、何といってもその棘（とげ）である。

いかにも危なそうだが、大抵のウニは素手で触っても大丈夫なのだ。しかし、中には毒棘を持つ危険なやつもいる。白浜の磯における危険なウニの代表はガンガゼの仲間である。

磯のタイドプールをのぞき込むと、ムラサキウニに代表されるいわゆる〝普通のウニ〟に交じって、細長い棘をユラユラと動かす一風変わったウニがいる。そのウニがガンガゼである。

棘の色はたいてい濃紺だが、中にはしま模様や真っ白なものもある。体のてっぺんにオレンジ色の『目玉』が見られるが、実はこれは肛門（こうもん）なのだ。姿形はガンガゼと似ているが、肛門が体と同じ濃紺色をしたウニは、近縁種のアオスジガンガゼである。

さてガンガゼ、アオスジガンガゼとも、棘の長さは20センチ以上に達するが、もろくて折れやすい。白浜水族館のガンガゼの水槽の底には、いつも折れた棘が散乱している。

なぜガンガゼの棘は折れやすいのか？。棘を拡大してみるとそれが分かる。節状の構造が連なり、横断面で見ると中空構造になっている。いかにももろそうである。

棘の先端部に、毒腺があると言われている。毒の成分についてはタンパク質の一種であることが分かっている。このため、ガンガゼに刺された時は、やけどしない程度の熱湯で温めると、やがて毒が分解して激痛が和らぐ。しかし、奥深くまで刺さって折れてしまった場合は、そこから感染症になることがあるため、一刻も早く病院で切開して取り除いてもらうことをおすすめする。

この様に恐ろしい棘を持つガンガゼだが懐に飛び込めば、そこは棘に守られた快適な空間になる。カクレエビやヤドリニナといった小動物たちが、棘の間や殻の表面を安住の地にしている。

（京都大学講師）